（ R05 様式　1 ）

令和　5　年　4　月　14　日

教　育　長　様

（※受付番号　　）

代表者	校 園 名：	大阪市立今里小学校
	校園長名：	松永　かおり
	電　　話：	06－6981－8800
	事務職員名：	粟田　有加
申請者	校 園 名：	大阪市立今里小学校
	職名・名前：	指導教諭・斉田　俊平
	電　　話：	06－6981－8800

研究コース
Ａ　グループ研究Ａ
校園コード（代表者校園の市費コード）
661456

令和５年度　「がんばる先生支援」研究支援　申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	Ａ　グループ研究Ａ	研究年数	継続研究（２年目）
2	研究テーマ	**子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」の追究 ～教育DXの推進と1人１台端末を生かしたカリキュラムデザインの構築～**			
3	研究目的	テーマに合致した目的を項立てして記載してください。 本校では、令和元年度より、研究テーマを「ＩＣＴを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する～情報活用能力育成を目指した主体的で対話的な深い学びの実践～」とし、大阪市標準の機器環境に加えて、がんばる先生支援の活用により機器環境を充実させ、日常的に1人１台端末を活用した実践を積み重ねてきた。この取組から、2021年に教育工学会(JAET)より「学校情報化先進校」に認定された。また、2022年にはパナソニック教育財団において、実践研究校に選定された。今後に向けては、大阪市教育振興基本計画の最重要目標にも掲げられる「多様な児童の可能性を引き出し、ゴール設定型学習と『個別最適な学び』を『協働的な学び』につなげることで教育DXの実現」を目指す。そこで、これまでのICTを効果的に活用した実践をもとに、学習の基盤となる児童の資質・能力を育成し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、１人１台端末を生かしたカリキュラムデザインを生み出す。具体的な３つの取り組みを以下に示す。 １．児童の情報活用能力を図る指標として作成した「情報活用能力チェックリスト2022年版」を更に改良し、児童の実態に応じたものに改善する。 ２．これまでに取り組んだ実践に、１人１台端末を生かした実践を最適に組み合わせることにより、年間を通して教科横断的に情報活用力を育成するためのカリキュラムマネジメントとその一般化を図る。 ３．「個別最適な学び」「協働的な学び」の追究をめざした授業展開により、情報活用能力とそれを支える言語能力、問題発見・解決能力を高める。			
4	研究内容	⑴研究内容の詳細　※継続研究２年目以降は１年目の記載をコピーして貼付する 探求的な学習の過程の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を追究した授業展開について実践をもとに研究し、児童の情報活用能力とそれを支える言語能力、問題発見・解決能力の向上を図っていきたい。また、オンライン学習や1人１台端末活用の場面が増えたことにより、これまでに活用してきた「情報活用能力チェックリスト」のチェック項目の再検討と、それを活用した児童の情報活用能力の推移を検証する。 〇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を追究した授業改善と、教員の指導力・授業力の向上。 ・それぞれの児童の興味関心に応じた学習活動や学習過程を想定し、指導者や児童がICTを効果的に活用することで、「個別最適な学び」を取り入れる。 ・学習過程において、他者との多様な学び合いや他校、他地域との交流を生かした「協働的な学び」を取り入れる。 ・個で取り組んだ「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、その成果を「個別最適な学び」に還元するサイクルを確立することで、教育DXの実現に向けた授業展開の工夫をする。 ・ＩＣＴを活用した協働的な学習の効果的な授業を実践する。 ・遠隔交流授業の年間を通した計画を作成し実施する。 〇「情報活用能力チェックリスト2022年版」を活用することで、オンライン学習や１人１台端末を活用する場面に合った情報活用能力の向上。 ・オンライン学習や１人１台端末活用を意識した「情報活用能力チェックリスト2022年版」及びチェック項目の改善をする。 ・チェック項目を「ICT操作スキル」「情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」「情報モラル」の３つに分類し、教員・児童がそれぞれの項目をより意識した指導や学習ができるようにする。 ・「情報活用能力チェックリスト2022年版」を活用した児童の情報活用能の実態把握と課題解決力向上の要素を取り入れた授業の実践及び児童の情報活用能力の推移の検証を行う。 ⑵継続研究［２年目］　※継続研究３年目の場合は、２年目の記載をコピーして貼付する 昨年度の研究では「情報活用能力チェックリスト２０２２年版」を活用することにより、１人１台端末を活用する場面にあった情報活用能力を身に着けることができた。この情報活用能力チェックリストで見えた課題をクリアできるような内容を組み込んだ単元構成を工夫することで、低学年から系統的に情報活用スキルを身につけさせることができた。 そして、教育DXの推進においては地理的制約に関わらず、また、学校に来ることができない児童に対しても、ハイブリット型の授業をすぐに実施できる体制づくりもでき「いつでも、どこでも、だれとでも」と、これまでのICT活用にとどまらず、一歩進んだ実践を積むことができた。 課題としては「情報活用能力チェックリスト2022年版」学年に応じた内容になっているのか。児童に分かりやすい目標になっているのかなどを再検討し活用する必要がある。また、情報活用能力チェックリストの結果から「情報活用」の項目の「うまくいかないときに改善するための問題点、解決方法を見つける」の項目においては肯定的な回答がどの学年も低く「問題発見解決能力」においての課題が残った。 もう１点は、協働的な学習の際に個で作ったデータ活用の効果がうまく発揮されなかった場面があった。児童が作った資料を共有した際に、比較しやすくするための教師側の工夫が必要であるなど、クラウド上にあるデータの効果的な活用法についての改善を図っていく必要がある。 〇主体的・対話的な学習を目指す中で、児童自身が「チェックリスト」を持ち自己評価したり、これまでつけた力を発揮しながら学習計画を考え、より良い学習方略を考えたりするなど、児童が活動を調整し、進める機会を取りいれた活動を取り入れていく。 ⑶継続研究［３年目］			

研究コース	Ａ　グループ研究Ａ	代表校校園コード	661456
代表校園	大阪市立今里小学校	校園長名	松永　かおり

5	活動計画	日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。 ４月　【研究企画会】　研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。 【研究全体会】 ・昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化を図る。 ・先行研究をもとに年間計画を立案する。 ・「情報活用能力チェックリスト2023年版」、教員アンケートを作成する。 【研究全体会】年間計画の共通理解を図る。 ５月　研究授業年間計画作成（公開授業に向けた授業者、指導案のひな型、研修日程・内容等） 「情報活用能力チェックリスト2023年版」実施・分析（第１回）、教員アンケートの実施・分析 ６月　【全体研修会①】「自己調整学習について」　講師　桃山学院教育大学講師　木村明憲先生 【授業研究会①】（研究協議会・指導案検討会） ７月　【授業研究会②】（研究協議会・指導案検討会） ８月　【全体研修会②】「令和の日本型学校教育を目指して」　講師　園田学園女子大学教授　堀田博史先生 ９月　【授業研究会③】（研究協議会・指導案検討会） 10月　「情報活用能力チェックリスト2023年版」実施・分析（第２回） 【授業研究会④】（研究協議会・指導案検討会） 【授業研究会⑤】（研究協議会・指導案検討会） 11月　【授業研究会⑥】（研究協議会・指導案検討会） 【がんばる先生支援　研究発表会】　公開授業・研究協議 指導助言　園田学園女子大学教授　堀田博史先生 １月　「情報活用能力チェックリスト2023年版」実施・分析（第３回） ２月　【研究推進委員会④】 ・学力経年調査の結果分析 ・教員アンケートの実施・分析 ・がんばる先生支援報告書作成・提出 【授業研修会③】「自己調整学習の実現に向けて」　講師　桃山学院教育大学講師　木村明憲先生 ３月　【研究推進委員会⑤】研究のまとめ作成 【研究全体会・全体研修会⑥】次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解 出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。 ・授業研修会の講師：桃山学院教育大学　木村明憲講師　年２回実施 ・授業研修会の講師・授業研究会の指導助言：園田学園女子大学　堀田博史教授　年２回実施
6	見込まれる成果とその検証方法	⑴継続研究（２年目、３年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。 ☐ 変更しない。 ☑ 変更する。 理由 昨年度、課題に上がった項目が「情報活用」に多くあったため、検証する項目を焦点化する。 ⑵大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上」および、「教員の資質や指導力の向上」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください） 【見込まれる成果１】 ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☐ 教員の資質や指導力の向上 個で取り組んだ「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、その成果を「個別最適な学び」に還元するサイクルを確立することで、児童の情報活用能力とそれを支える言語能力、問題発見・解決能力の向上をめざす。 ≪検証方法≫ 学力経年調査の国語科の記述式の回答結果において「自分の考えを書く」出題分野の正答率を６０％以上にする。また、学力経年調査や年度末の校内アンケートにおいて「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。 【見込まれる成果２】 ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☐ 教員の資質や指導力の向上 児童が主体的にＩＣＴを活用し、協働的な学びや言語活動を行うことによる児童の情報活用能力の向上 ≪検証方法≫ 児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、および年度末に実施し「情報活用」の項目において、全学年とも事後の平均を90％以上にする。

代表校園　　大阪市立今里小学校　　校園長名　　松永　かおり

<table>
<tr><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">見込まれる成果とその検証方法</td><td>【見込まれる成果３】
☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上
☑ 教員の資質や指導力の向上
教職員のＩＣＴ活用スキルや授業力の向上

≪検証方法≫
教員のＩＣＴ活用指導力アンケート（文科省「学校情報化調査」）において、すべての項目における平均値が３．５以上となるようにする。</td></tr>
<tr><td>【見込まれる成果４】
☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上
☑ 教員の資質や指導力の向上
〇ICTを活用したこれまでの実践を整理し、学習の基盤となる資質能力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と、１人１台端末を生かしたカリキュラムデザインの一般化。

≪検証方法≫
１人１台端末活用の年間計画・単元計画を作成し、HPに公開し一般化を図る。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>研究成果の共有方法</td><td>◆研究発表【必須】　<u>報告書提出日（令和６年２月22日）までに必ず行ってください。</u>
〇研究発表の日程・場所（予定）
日程：令和　5　年　11　月　22　日　／　場所：今里小学校
◆waku×2.com－bee掲載による共有【必須】
〇掲載の日程（予定）
日程：令和　6　年　2　月　20　日
◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">8</td><td rowspan="3">代表校園長のコメント</td><td>１．新規研究（１年目）　※継続研究２年目以降は１年目の記載をコピーして貼付する
本研究は、大阪市教育振興基本計画の最重要目標３の学びを支える教育環境の充実の基本的な方向６「教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）」にも書かれているように、日常的に子どもたちがＩＣＴを主体的に活用し、多様な情報を選択・活用しながら情報活用能力を高め、主体的な学びを通じて育成される資質・能力を円滑な学びにつなげていくことを目的としています。そのために、子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を追究した授業展開について深く掘り下げていきます。さらに、ICTを効果的に活用し、これまで本校の研究成果を最適に組み合わせることで、教育の質の向上が見込まれます。そして、これらの研究内容は、令和４年３月に改訂された「大阪市学校教育ＩＣＴビジョン」のめざす子ども像を育てることにもつながります。
なお、本研究を進めるにあたっては、園田学園大学の堀田博史教授にご協力・ご指導いただく了承をいただいております。</td></tr>
<tr><td>２．継続研究（２年目）　※継続研究３年目の場合は、２年目の記載をコピーして貼付する
研究１年目では１人１台端末の活用において低学年から系統的に場面にあった情報活用能力を身に着けることができ、大きな成果をあげることができました。しかし情報活用能力のうち、うまくいかないときの改善するための「問題発見解決能力」において課題が残りました。今年度はその課題の解決とともに、協働的な学習の際に個で作ったデータ活用の効果的な共有方法や比較活用のための教師側の授業力の向上、クラウド上にあるデータの効果的な活用法についての研究を深めていきます。
なお、本研究でこれまで以上に主体的・対話的で深い学びの実現をめざすために、桃山学院教育大学の木村明憲講師、園田学園女子大学の堀田博史教授にご協力・ご指導いただく承諾をいただいております。</td></tr>
<tr><td>３．継続研究（３年目）</td></tr>
</table>